

支援先から



パレスチナ支援

2023年10月から続く、イスラエル軍によるガザ攻撃。多くの方から関心を寄せていただき、現地のニーズに合わせて支援することができました。

ガザに水を届けました！

7月はじめ、南ガザ地区の、デル・アルバラという小さな町の医師、フサムさんの発信により日本のアースキャラバン・「希望の火」チームにメールが届きました。

ガザの難民キャンプで安全な飲料水を手に入れることが非常に困難で、爆撃以外にそのことが理由で毎日人々が亡くなり深刻な問題になっているとのこと。

アースキャラバン・「希望の火」チームでは、



今年4月にガザから脱出され、現地の人とコンタクトを取りながら、地元の友人やボランティアをコーディネートし支援活動をされているアハメッドさんに、海外チームからも合わせて約77万円を送金し、給水車を手配していただきました。

迅速に3箇所のキャンプ、約7500人に3ヶ月にわたってきれいな飲み水を届けることができました。

ガザの子どもたちに冬服を届けました！



11月中旬にアースキャラバン・「希望の火」から、再びアハメッドさん経由で、フサム医師に送金。

フサムさんが現地を何時間も探し歩き、購入したあたたかい冬服を、キャンプの子どもたち34人に2着ずつ手渡すことができました。

送金から購入、手渡されるまでのそのスピー

ドの速さに、フサムさんの誠実さと、現地の切実な状況を感じました。



物資は外から送ることができず、水以外でも、ミルク、オムツ、テントカバー、防寒具、靴、石鹸や小麦などの不足、高騰化も深刻でした。

ガザの子どもたちに文房具が手渡されました。

2025/01/29 (水)

物資も少なくなっている中、フサム医師が文房具を探し求め、あちこち走り回って集めて



くれました。

幼稚園からの子どもたち150人に鉛筆、消しゴム、ペン、ノートなどが手渡されたと報告がありました。



ガザの子どもたちへの創作・教育活動



2025/01/29 (水)

ガザ ハーン・ユニスのキャンプで、地元のニーズから子どもたちへの創作・教育活動が行われました。



缶詰や少しの食料品もそれぞれに手渡されました。

学校は爆撃されてなくなり、子どもたちは通うことができません。

あちこちの地域からキャンプには人が集まってきています。そんな子どもたちへの必要性を感じた大人たちによって実行されました。

自分の子ども3人を殺されてしまった方も、「子どもたちはみんな自分の子どもだから」と様々なサポートに入ってくれているそうです。



「希望の火」メンバー、アハメッドさん

2023年春から希望の火の活動に参加しているガザ地区カンユニス出身のアハメッドさん。芸術治療家で、2024年の4月にガザからエジプトのカイロに避難しました。地元の状況は誰よりも知っています。

写真左下は子供たちにアートセラピーをする様子。右下は、脱出後のトラウマと疲労も癒えないうちに、カイロのイタリア病院でボランティア活動開始。

2023年秋の戦争勃発から脱出するまで、「希望の火」も参加したクラウドファンディングで集めた資金で水や食料食料給の人道支援をしていました。文字通り爆撃をかいくぐっての危険な仕事で、何度も死と隣り合わせになったといいます。集まった資金でカンユニスの井戸のポンプを作動させ、約4万人に安全な水を提供した経験があります。

そんな彼の尽力で8月10日に初めて「希望の火」チームによる飲料水供給が始まりました。



地元のニーズを発信し、現地で迅速に活動してくださるフサム医師。

ラカイン族の子どもたち



今年度もバングラデシュ・ラカイン族のラジョーさんから、子どもたちの写真をたくさん送っていただくことができました。

1年中元気に裸足で駆け回る子どもたちの笑顔には、何度も励まされました。

バングラデシュのほとんどはイスラム教徒の中で、ラカイン族は少数民族仏教徒です。

彼らは権利も保障されていません。お金がないと十分な教育が受けられないのが現状です。

引き続き、アースキャラバンではラカイン族の村や子どもたちのサポートを続けて参ります。これからもどうぞご支援のほど、よろしくお願い致します。

